

評価票

事業名	平成22年度地球規模課題国際研究ネットワーク事業（国際研究ネットワーク形成等の推進）	担当機関名	独立行政法人 国際農林水産業研究センター
事業費	事業総額 5,859千円	事業期間	平成22年度
<p>[事業概要] 地球規模課題国際研究ネットワーク事業は「国際研究ネットワーク形成等の推進」と「国際研究等の推進」（3課題の国際共同研究を実施）の二本柱で一体的に取り組む全体として我が国が対応すべき国際的な農林水産分野の課題解決に貢献することを目指すものである。</p> <p>柱の一つである本事業では、国際研究ネットワークの形成等の推進のため、センター機関を設置して、国際研究分野における技術的な目利き、将来予測、国際共同研究の成果等の幅広い普及、国際研究全般に関するシンポジウム開催等を行う。（参考資料：PR版及びポンチ絵）</p>			
目 標	<p>① 国際研究分野における技術的な目利き、将来予測等： 特に農業分野における温室効果ガス排出削減・吸収等の分野において、国内にある研究・技術シーズ等について、今後国際研究に取り組むことで課題解決に貢献できる見通しのものについて整理し、その将来予測を行う。</p> <p>② 国際研究に関するシンポジウムの開催： ①の成果、「地球規模課題国際研究ネットワーク事業（国際共同研究等の推進）」委託事業におけるコンソーシアムの活動状況等を踏まえつつ、国内の研究者、技術者、関係者等を対象に、情報交換、交流、連携強化等を図るためのシンポジウムを開催する。</p> <p>③「国際共同研究の成果等の幅広い普及」： ①、②の成果や、関連コンソーシアムの活動、これまでの農林水産分野における国際共同研究の主要な成果等を掲載したウェブサイトを開設する。また同サイト上に国際研究に係る国内研究機関のネットワーク化を推進するための情報交換の場を設置する。</p>		
実施結果	<p>① 2010年版文科省科学技術予測調査を参照して、農林水産分野における温室効果ガス排出削減・吸収等の分野において、29課題の研究・技術シーズ等を抽出・設定し、国内60名、国外26名+αの研究者等にデルファイ調査を実施。</p> <p>② 平成22年11月8-9日につくば国際会議場においてJIRCAS国際シンポジウムと合同で142名の参加者を得て国際研究ネットワークを主テーマに国際シンポジウムを開催。</p> <p>③ 国際研究に関する情報サイトを基本コンセプトとして、ウェブサイトの設計、主要ページ（和文、英文）を編集、セキュリティ監査を実施し、公開可能な状態となっている。（ウェブサイトは、2011年3月11日の東日本大地震の影響により開設が中断、4月19日に復旧し右のとおり開設：http://iris-aff.dc.affrc.go.jp/）</p>		
1. 事業の目標の達成度等			評価ランク：A

デルファイ調査については、海外からの回答数が限られるなど、やや不十分なところもあるが、29課題への抽出、設定、調査の方法が適切。興味深い結果が出ており目標を達成していると考えられるが、技術的目利きについて、やや不十分な面も見られる。

国際シンポジウムについては、構成、内容ともに充実し、目標は達成されている。

公表準備中のウェブサイトについては、期待以上に充実したコンテンツが用意されており評価したい。

本事業の担当機関が毎年変わることも想定されるので、運営方法を改良するなど、ギャップを生じないような配慮が必要。

2. 事業が社会・経済等に及ぼす効果の明確性

評価ランク：A

デルファイ調査結果は極めて興味深く、研究戦略の重要性にとって重要な判断材料となる。シンポジウムの内容は国際研究ネットワーク形成の重要性と方向を考える上で有益であるが、社会、経済に及ぼす影響を明確にするという点では不十分。

準備されているホームページのコンテンツ、なかでも「研究成果約100課題」は内外の研究者にとって有意義な情報となるものと思われる。特に、成果の英文翻訳の努力は評価できる。研究情報の公開という点では大前進であるが、社会経済に及ぼす影響を明確にするためにもう一工夫が必要。

ネットワーク形成について、効果が見えてきているが、成果の活用について、さらに明確にしてゆく必要がある。

3. 事業の運営方法の妥当性：

評価ランク：A

デルファイ調査の成果をまとめるための方策については、より工夫する必要。

事業実施報告書で報告されているシンポジウムの開催及びウェブサイトの作成など事業目的を達成し、優れた成果が得られている。

こうした業務に、主任研究員がほぼ専任であたるなど、実施にあたりかなり充実した体制が組み立てられており、予算の枠内で最大限の努力をなされ、事業の推進方法として最善の方法で取り組まれている。

4. 事業の意義

評価ランク：A

事業の意義は高いと認められる。

デルファイ調査により、問題点を絞っていることを高く評価。今後の課題設定と重点化のための有効な判断材料となる。

ホームページのアクセス数についてはまだ評価できず、今後フォローのしてゆく必要がある。今後は、意見交換の場とするため、日本の研究者の意見をまず掲載してゆくべき。

国際研究の分野で我が国がイニシアチブを発揮すべき地域としてのアジアの重要性を明示すべきだが、総じて、国際連携のための人材・情報のネットワークが形成できたと考える。

【総括評価】

評価ランク： A

全体としては初年度としての方向付けが行われ、当初の目的に沿って妥当な成果が得られている。その中、様々な活動に取り組んでいるが、それぞれを結びつけて全体としての効果を高めていく整理が必要と思われる。

デルファイ調査により、課題に対する問題点を絞っていることや、調査における29の課題への絞り込み、国外への調査等が高く評価できるものの、具体的な活用面で検討が必要である。国内研究・技術シーズの整理に大学を加えてゆくべきで、改善すべき点もある。数十年後に、この成果と現実を是非照合されたい。

国内研究機関のネットワーク形成に関して、現時点で具体的な成果はまだ得られていないわけではないが、今後、公開したウェブサイトが、そのようなネットワーク形成の基礎となるものと期待したい。その点で、ウェブサイトの作成は評価に値する。

長期的な視野でとりくむべき課題が多いので、今年の成果を次年度に確実に引き継ぐことが可能な体制をとることが研究管理の面から必要である。

○参考資料：「PR版、ポンチ絵」

○評価者：事業運営委員会委員

委員(PD) 内川昭彦（鈴木亮太郎～H23.1.17）

農林水産省農林水産技術会議事務局国際研究課長

委員 齋藤委員 農林水産技術会議事務局研究調整官(環境)

委員 安東郁男 農林水産省農林水産技術会議事務局筑波事務所研究交流管理官

委員 貝沼圭二 九州大学大学院農学研究院 特別顧問

委員 大賀圭治 日本大学生物資源科学部 教授

(順不同)

センター機関の評価項目及び評価基準

評価項目（注1）	評価項目に含まれる事項	評価基準
1. 事業の目標の達成度等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の目標の達成度 ・ 国際研究ネットワークに参加する機関の実績等 ・ ネットワークの活動の実績等 	S：非常に高い A：高い B：やや低い C：低い
2. 事業が社会・経済等に及ぼす効果の明確性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会・経済への効果（国際研究ネットワークの形成への貢献、国内研究機関の連携の強化等）の明確性 ・ 現状の明確化への貢献 ・ 事業の成果の活用方法の明確性（行政施策への貢献、事業化・実用化の見通し等） 	S：非常に高い A：高い B：やや低い C：低い
3. 事業の推進方法の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進行管理（ネットワークの運営、技術的目利きの的確さ等）の妥当性 ・ 投入された資源の妥当性 ・ 海外機関の取組 	S：非常に高い A：高い B：やや低い C：低い
4. 事業の成果の意義	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の科学的、社会・経済的意義 	S：非常に高い A：高い B：やや低い C：低い
<p>〔総括評価基準〕</p> <p>1～4の観点をつまみ、事業の総合的な評価として、次の4段階で評価を行う。</p> <p>S：事業は予想以上の成果をあげた。</p> <p>A：事業は概ね目的を達成した。</p> <p>B：事業の目的の達成がやや不十分であった。</p> <p>C：事業の目的の達成は不十分であった。</p>		

（注1）各評価項目と「必要性」、「効率性」、「有効性」の観点との対応は以下のとおり。

- ・ 事後評価では必要性は4、効率性は3、有効性は1及び2